

仕 様 書

- 1 事業名 御保国第7-2号 診療報酬明細書点検・過誤調整業務委託
- 2 業務内容 国民健康保険診療報酬明細書の整理、過誤調整業務
 - ① 診療報酬明細書資格確認結果表の整理（国保連合会通知分より）
 - ② 診療報酬明細書の縦覧点検
 - ③ 専用端末にて御嵩町国民健康保険資格有無確認
 - ④ 内容確認【確認内容：受診日、点数、負担割合、重複請求、併用保険有無、該当者の全明細書（医科・歯科・調剤・柔道整復、訪問看護ステーション）の資格確認】
 - ⑤ 内容確認後、医療機関及び薬局等へ過誤調整依頼
 - ⑥ 過誤に伴う保険者徴収
 - ⑦ 医療機関へ再請求依頼
 - ⑧ 専用端末（国保総合システム）へ結果入力
 - ⑨ 国保連合会への再審査申出依頼
 - ⑩ 医療と介護の給付調整
 - ⑪ 診療報酬明細書の整理

点検は別紙「特記事項」を参照の上行うこと
- 3 業務の範囲 診療報酬明細書点検・過誤調整
 - 令和7年度：令和7年2月～令和8年1月診療（取扱）分
 - 令和8年度：令和8年2月～令和9年1月診療（取扱）分
- 4 業務期間 令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年間）

・点検実施日数等は実情により協議のうえ決定する。（1か月あたり1週間程度）
- 5 業務時間 祝祭日を除く月～金曜日 9：00～17：00
（ただし、発注者の承諾を得た場合はこの限りではない。）
- 6 履行場所 御嵩町役場 保険長寿課
- 7 委託条件
 - ① 受注者は、本業務の実施にあたって、関係法令等を遵守すること。
 - ② 受注者は、本業務の履行により知り得た業務内容及び個人情報等を、一切第三者に漏らしてはならない。また、委託契約期間終了後も同様とする。
 - ③ 受注者は、点検に従事する者に対し、研修等しかるべき措置を講ずるよう努めなければならない。
 - ④ 受注者は、同種の業務について十分な業務実績のある点検員かつパソコン

の使用経験がある点検員に従事させるとともに、可能な限り同じ点検員に従事させるものとする。

- ⑤ 受注者は、診療報酬明細書等を印刷し持ち出してはならない。ただし、業務を遂行する上で必要であり、かつ発注者の承諾を得た範囲についてはこの限りでない。
- ⑥ 受注者は、業務中のトラブル発生時に迅速な対応ができるよう、バックアップ体制を整えるものとする。
- ⑦ 受注者は、点検業務実施中における服装等の身だしなみに注意し、名札を着用する。

8 支払方法 契約金額の支払いは年 12 回払いとし、月毎に「業務完了報告書」を提出した後、発注者が行う検査終了後、受注者が事前に提出した「月別支払額表」に基づく金額を記載した月毎の請求書の提出によって支払を行う。

- 9 その他
- ① その他契約書、本仕様書に定めのない事項及び業務遂行上疑義が生じた事項については、その都度協議のうえ業務を行うものとする。
 - ② 契約締結後、本業務実施に係る打合せ及びレセプト管理システムの操作説明を発注者が指定する日に行うものとする。
 - ③ 妨害又は不当要求に対する通報義務
 - i) 受注者は契約の履行にあたり、暴力団関係者等から事実関係及び社会通念等に照らして合理的な理由が認められない不当若しくは違法な要求又は契約の適正な履行を妨害された場合は警察に通報しなければならない。なお、これらの不当介入を受けたにも関わらず通報しない場合は指名停止措置を講じることがある。
 - ii) 受注者は、暴力団等による不当介入を受けたことに起因して履行期間内に契約内容を完了することができないときは、発注者に対して履行期間の延長を請求することができる。

10 点検件数（見込み）

レセプト種別	令和 7 年度	令和 8 年度
国保診療報酬明細	74,400 件/12 月	73,300 件/12 月
柔道整復診療報酬明細	1,440 件/12 月	1,330 件/12 月
過誤調整	1,440 件/12 月	1,330 件/12 月

別紙

特記事項

点検にあたっては、下記の点等に留意のうえ実施し、効率のよい点検を実施すること。

- ・ 初診年月と初診料算定の不一致
- ・ 当月診療日数と初診、最新回数の不一致
- ・ 再診料の外来管理加算の算定誤り
- ・ 傷病名と特定疾患指導料との不一致
- ・ 各種指導料・各種管理料の算定の妥当性
- ・ 各種薬剤の傷病名と適応及び投与日数、回数の妥当性
- ・ 調剤レセプトに対する医科レセプトの突合による傷病名と適応及び投与日数、回数の妥当性
- ・ 院外処方箋料の薬剤数による算定誤り
- ・ 調剤における調剤料の誤り
- ・ 注射、処置、手術、検査、画像診断、放射線治療の傷病名に対する妥当性
- ・ 検査、同一検体について定性、定量との関係
- ・ 検査、同一検体について一般検査と精密検査との関連
- ・ 同時検査実施での複数算定できない検査
- ・ 内視鏡検査時での注射手技、処置、手術との関連
- ・ 入院日と診療開始日
- ・ 特別食と傷病名の関連
- ・ 手術内容との関連
- ・ コンピューター断層撮影と傷病名、回数との関連
- ・ CT、MRI 撮影時と傷病名、回数との関連
- ・ リハビリテーションとの処置欄、算定回数、日数との関連
- ・ 入院医学管理料の算定の妥当性
- ・ 重複請求、同一医療機関の重複検査等
- ・ 連月での初診料算定の可否
- ・ 入院時から 1 ヶ月以内では慢性疾患指導料算定不可
- ・ ウイルス疾患指導料 1 が毎月算定されていないか
- ・ 慢性疼痛疾患管理料の算定初月より後の月に理学、消鎮が算定不可
- ・ 2 診療科初診 141 点では 1 診療科での同一疾患があれば算定不可
- ・ 網膜光凝固術
- ・ 下肢静脈瘤硬化療法
- ・ 対外衝撃波腎、尿管結石破砕術
- ・ 特殊検査等連月検査の妥当性
- ・ 連月でのルーチン検査の妥当性
- ・ 救急医療管理加算（7 日間まで）の妥当性
- ・ その他、医科、歯科、薬価基準、療養費の支給基準等に照らし合わせ算定の妥当性 等